

令和6年度 第55回千葉県中学校新人バスケットボール大会 総評

第55回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は、11月3日（日）、9日（土）、10日（日）の3日間の日程で、柏市沼南体育館をメイン会場として開催された。

男子のベスト4には、市原市立辰巳台中学校（市原）、千葉市立加曽利中学校（千葉）、松戸市立第四中学校（松戸）、市原市立ちはら台南中学校（市原）が名を連ねた。準決勝Aコートの辰巳台 VS 加曽利は、終始リードを守った辰巳台が決勝進出。Bコートの松戸四 VS ちはら台南は、ちはら台南の粘り強いディフェンスが光るも、松戸四が決勝進出を果たした。

決勝戦、辰巳台対松戸四は両チームハーフコートマンツーマンでスタート。辰巳台は激しいディフェンスからボールを奪い、力強いドライブで攻める。対する松戸四は高さを生かしたりバウンドから速攻で得点を重ねる。松戸四の速攻からのバスケットカウントが連続で決まり、主導権を握る。辰巳台は#4田口の1対1からのジャンプシュートや巧みなパスワークで連続得点し、流れをつかみかけるが、松戸四は慌てずに高さのあるポストプレーや#4大塚や#6武田の鋭いドライブで対抗し主導権を譲らない。お互いに一進一退の攻防が続き26-30で2Qを終える。後半は、松戸四が粘り強いオフェンスリバウンドから得点を重ね、突き放しにかかるが、辰巳台は#4田口の1対1や#5猿橋の3Pシュートで必死にくらいつく。#5猿橋の3Pが再び決まり、1点差に迫る。お互いにディフェンスのプレッシャーを強め、点の取り合いとなるが、松戸四#6武田のドライブ、ゴール下のシュートが連続で決まる。辰巳台はプレスディフェンスをしかけるが、松戸四は落ち着いてボールを運び、54-62で試合終了となり、松戸四が初優勝を収めた。

一方、女子のベスト4は、昭和学院中学校（市川・浦安）、大網白里市立大網中学校（山武）、船橋市立七林中学校（船橋）、千葉市立真砂中学校（千葉）が顔を揃えた。準決勝Aコートの昭和学院 VS 大網は、大網が果敢にゴールに迫り続けるも、昭和学院がリードを保ち、決勝進出。Bコートの七林 VS 真砂は、七林が安定したゲーム運びを続け、決勝に進出した。

決勝戦、共にシードから勝ち上がった昭和学院対七林。両チームともハーフコートマンツーマンで始まった。昭和学院が#4薬師寺、#5吉田のドライブで先行して点数を決めていく。対して七林は#9戸田の3Pや#10鷺尾のドライブで流れを変えようと積極的にオフェンスを展開していくも、38-16で前半を終える。後半に入り、流れは大きく七林に傾く。前半に比べ、七林のディフェンスが激しくなると同時に#12雨池を中心とした速い展開で得点を重ねる。3Q後半は#11武田のインサイドプレーで一気に点差を縮め、43-36で3Qを終える。4Qは一進一退の展開が続く。七林は#11武田のインサイドプレーで得点を重ねた。残り5分で4点差まで迫るが、昭和学院も激しいディフェンスで少しずつ試合のペースを握る。昭和学院は終盤、#7木内のドライブで着実に得点し、最後まで粘る七林を振り切り、3年連続25回目の優勝を決めた。

今年度の新人大会は、最後まで粘り強くプレーするチームが代表として出場しており、諸処に選手の良いプレーが見られた。夏に行われた千葉関東大会から引き続き熱い試合が展開されることが多く、千葉県中学生選手の活躍が期待される新人大会であった。最後まで一生懸命にプレーし続ける、中学生らしいひたむきな姿勢には観客を魅了するものがあつた。

最後に、TO指導や会場準備など、開催地区である柏支部、葛北支部、葛南支部の役員の先生方、生徒の皆様、支部外からお手伝いいただいた先生方、バスケットボール関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えられたことに、心より感謝申し上げます。